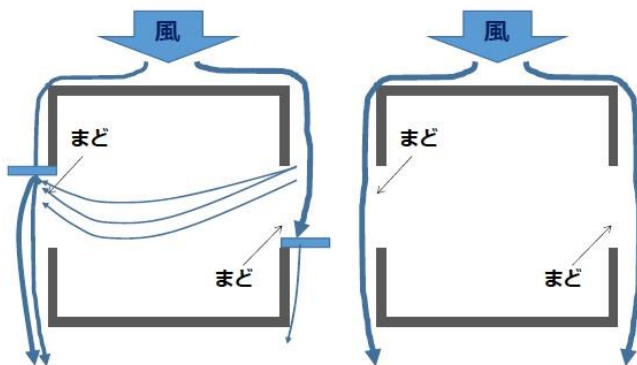


<すまいの風とおしと遮熱>

風は、肌で感じるだけではなく、例えばのれんなら動きを見て、風鈴なら音を聞いて感じることができます。人は風速 0.3m/s で風を感じることができますが、扇風機だと 1.5m 離れたところで 0.4m/s、エアコンの吹き出し口だと 1.2~1.5m/s 程度あり、始めは気持ちいいと思いますが、ずっとその風にあたると気持ちいいと感じなくなります。風には強弱がある方が気持ちよく感じるのです。

外の温度が下がる夜や朝は窓を開けて自然の風を通すことで、エアコンの利用を抑え涼しく過ごすことができます。ただ、窓は闇雲に開けるのではなく、風が入ってくる方向に大きく、風が抜ける方は小さく開けることで、風がたくさん流れます。また、風が入ってくる方向に平行な窓では、風は流れていくだけですが、ウィンドキャッチャー(家の脇を通る風をつかんで呼び込む窓)を付けることで、風が通りやすくなります。また、吹き抜けなどによって高さの違う窓がある場合、高さが違う窓を開けることで、少ない風でもよく通るようになります。

・ウィンドキャッチャーをつけたらどうなるか



また、太陽の熱を家の中に入れないように、簾(すだれ)や庇(ひさし)を取り付けるのも効果的です。庇は窓や縁側のうえに、夏の太陽の光を遮るよう取り付けられますが、日の低くなる冬の光は取り込めるようになっています。最近の家は、敷地のギリギリまで家を建てるため、庇が無く、夏の暑い日射しがそのまま部屋に入ってしまうことが多いかもしれません。その時は、簾(すだれ)をつけて日射しを防ぐとよいでしょう。

講師 伊庭 恵 氏